

令和4年度
春号



■ 発行 佐賀中部病院



佐賀市兵庫南3-8-1 TEL 0952-28-5311



病院の理念

基本理念

1. 患者さん中心の医療を行い、質の高い安全な医療を提供します。
2. 皆様が安心して暮らせ、心の支えとなる病院を目指します。

基本方針

1. 患者さんを中心としたチーム医療を行います。
2. 地域へ良質な保健（健診センター）・医療・福祉（老健施設、在宅ケア）の提供を行います。
3. 地域医療機関と密接に連携した医療を行います。

新任のご挨拶



副院長 園畠素樹

皆様こんにちは。

令和4年4月よりJCHO佐賀中部病院に赴任しました園畠です。簡単に自己紹介をさせていただきます。佐賀医科大学（現佐賀大学）を平成4年に卒業し、現在医師として30年を超えたところです。年数だけを見ると、ベテランの域に入っていますが、気持ちはまだ若いつもりの整形外科医です。麻酔科や救急部での研修後、いくつかの病院と佐賀大学病院で勤務してきました。整形外科もいくつかの分野に分かれています。その中で手外科と股関節外科を中心に診療を行ってきました。また、運動器慢性疼痛の診療も専門として積極的に行ってきました。運動器慢性疼痛というのは、上下肢、脊椎、つまり整形外科分野全般の長く続く痛みの事です。運動器慢性疼痛でお困りの患者様は多くいらっしゃると思います。他の医療機関とも連携を行いながら、少しでも痛みを軽くすることができるよう頑張ります。

赴任直後にもかかわらず、副院長を拝命しました。より良い診療を心掛けると同時に、JCHO中部病院がこれまで以上に地域医療に貢献できる医療機関となりますよう、一生懸命頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。



看護部長 時里玉栄

令和4年4月1日に看護部長として赴任しました時里玉栄と申します。この場を借りまして皆様にご挨拶させていただきます。平成2年に社会保険久留米第一病院（現JCHO久留米総合病院）に入職。看護の得意分野はがん看護で、がん化学療法認定看護師の資格を持っています。直近6年間は副看護部長として患者さまの病床管理と看護職員の教育・労務管理を行ってきました。

JCHOの使命の一つに地域医療・地域包括ケアの要となる人材を育成し、地域住民の期待に応えることがあります。今後はJCHO佐賀中部病院職員の皆さまの協力を頂きながら、看護部の理念に基づいた「看護で選ばれる病院」を目指し、職員が楽しくイキイキ働ける職場づくりに尽力したいと考えております。

病院・健診センター・附属介護老人保健施設と地域で生活する患者さま（利用者さま）やご家族に寄り添い、きれめのない安全で安心な看護・介護が提供できる環境を整えていきたいと思います。そのためには、看護師が専門職として自立・成長し、チーム医療の中で看護職としてやりがいを感じながら働き続けられるような教育体制を整備していきたいと思います。

さいごに、自治体や地域の医療・介護機関、看護学校についての連携を進め、求められる地域完結型の医療に貢献できるよう努力しますので、ご支援のほどよろしくお願ひいたします。

新任医師のご紹介

4月1日採用



副院長
園畑 素樹



血液内科医師
藤田 真衣



外科医師
上田 雄一郎



整形外科医師
中島 武馬



整形外科医師
伊藤 勇人



眼科医師
河野 佳鈴

5月1日採用



外科医師
日野 東洋



退職医師のご報告

3月31日付

副院長

河島 通博

整形外科医師

伊藤 恵里子

血液内科医長

出 勝

整形外科医師

梅木 駿

外科医師

原田 世衣子

整形外科医師

山口 雄一

外科医師

執行 ひろな

眼科医師

柴宮 浩希

4月30日付

外科医師

仕垣 隆浩



健康管理センターのご紹介

健康管理センターでは、各種の健診など受診者の皆さまの健康を管理することを目的に、質の高いサービスを提供することを心がけています。主な健診の種類として、生活習慣病健診、半日人間ドック、1泊2日ドック、一般健康診断（法定健診）、特定健診、乳がん検診、子宮がん検診他、生活習慣病予防やがんの早期発見に努めています。結果の判断には各専門の医師が健診事業に関わっており胸部X線は呼吸器科、胃部透視には消化器科、心電図は循環器科、眼底・眼圧検査には眼科の医師が必ずチェックします。特に胸部X線、胃部透視はダブルチェックを実施し、最終的にはセンター長が各検査より総合的に判断します。

マンモグラフィ検査、乳房超音波検査、スメア検診、経膣エコー検診など婦人科検診については、女性の技師が検査をするので、安心して検査を受診できます。

骨粗そしょう検査、腫瘍マーカー検査、胸部CT、脳ドック、心筋梗塞・脳梗塞リスクマーカー等のオプション検査も充実しています。

また、保健師による特定保健指導も行っておりますので、健康診断実施時にお気軽にご相談ください。

今後も受診者、事業所のニーズに応じ、皆さまの健康サポートに努め、さらに地域に必要となる施設を目指します。

お花見弁当

2022.3.30



～栄養管理室での初めての試み～

栄養管理室 田端ゆか里

今まで春を感じるメニューを提供した事がなく、そこで今回初めて桜が開花する時期に合わせ、お花見弁当をお届けする事ができました。病院はお弁当に詰め、老健の方は敷き紙を敷いて食器にて提供しました。病院・老健にミールラウンドをした時には皆様とても喜んで下さり『桜を見に行けなかったから、この敷き紙で桜が見れて嬉しいわ。』と言って下さる方やお弁当を持って他の方と一緒に喜ばれている方もいらっしゃいました。

これからも皆様に喜んでいただける『四季彩御膳』を提供していきたいと思います。



病院(常食・軟菜)



老健(常食・軟菜)



栄養士も現場に入り皆で協力して配膳しました。



老健おやつ(桜花びらゼリー)
牛乳寒天に桜エッセンスを入れて作りました。

退職のご挨拶

運・縁・今後

前副院長 河島通博

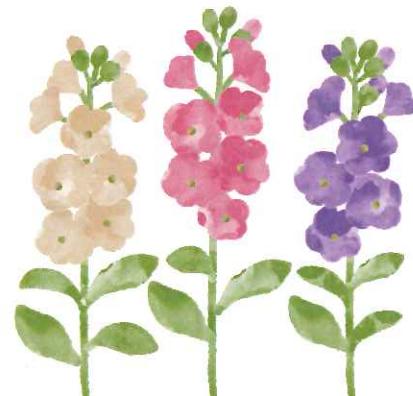
佐賀社会保険病院からJCHO佐賀中部病院に替わる頃に赴任し、早いもので10年が過ぎました。振り返るとあっという間の10年でしたが、齢も60歳となりいろいろなことがあったと感慨に浸る毎日を送っています。

私には佐賀医科大学呼吸器内科に入局を決めた当時から、恩師ともいえる二人の先生がおります。当院の前院長である加藤先生とこの4月から赴任予定の敬天堂古賀病院の山田先生です。お二人ともが、院長職を退かれるときに私に後を託されました。運命であると思うとともに本当に強い縁・繋がりを感じます。少なくともこの10年、佐賀中部病院は呼吸器が強い病院であるという前院長から続く伝統は何とか維持できたのではないかと自負しています。

当院に赴任当初は赤字からの脱却ができない状態が数年続きました。160床という中途半端な病床数の病院で何ができるのか？近隣に大学病院をはじめとする急性期対応の大病院が多い中で当院の存在意義を検討する日々が続いていました。現院長をはじめとする多くのスタッフと協議を繰り返して、一病棟全て（44床）を地域包括病棟とすることに決定しました。急性期と慢性期のハイブリッド方式の検討です。佐賀市は県庁所在地ではあるとはいえ高齢者が多く、また短期入院が困難な患者さんが多く院内外を問わず急性期医療を終えた患者さんの行き場がない状況にありました。大学病院等からの転院を積極的に受け入れることが可能となり、経営の収支も改善。さらに急性期医療も同時に行えることで、職員の医療に対するモチベーションも維持できました。地域包括ケア病棟導入が当院の救世主となり、存在意義も同時に見出せました。

急性期医療と慢性期医療の同時対応で当院の方向性も固まったかに見えた矢先、この2年間は想像すらしなかった新型コロナウイルス感染症との戦いに追われることとなりました。呼吸器科医でありまた副院長としてこの新興感染症に相対することも私の運命であったものと思います。流行初期からの発熱外来の設置やCOVID19入院患者の受け入れ等、医療スタッフのみならず事務系職員さらには保健所、県庁職員さんと協力しながら新型コロナウイルス感染症に対応してきた2年間でした。

COVID19、日本の医療がどう変化していくか分からない状況が続いているものと思います。私の立ち位置は変わりますが、今後も運と縁を大切にしながら長く臨床医をやっていく予定です。10年間ありがとうございました。



退職のご挨拶

前看護部長

内田 映子

このたび、無事に3月末で定年を迎えることができました。2019年4月に諫早総合病院から転勤して、3年間佐賀中部病院で勤務しました。転勤してきたとき、定年は佐賀で迎えたいと内心考えていました。しかし、いつどんな転勤の辞令があるかわからない組織なので転勤の時期は少しヒヤヒヤしていました。

私の看護師人生始まりは、高校時代に遡ります。看護学校に行くつもりはなかったのですが、友人との何気ない会話をきっかけに受験しました。その後、目指していた大学に不合格でしたので看護学校へ入学しました。入学してからも秋頃迄は、いつ辞めようかとずっと考えていました。こんな私が、定年まで看護師を続けるとは想像もしていませんでした。

私は、生まれも育ちも長崎県諫早市ですので、地元にある諫早総合病院に就職しました。

循環器内科病棟、外来、産婦人科病棟など経験する中で、看護のやりがいも増してきました。その中でも一番楽しくて、やりがいを感じた部署は外来です。医師とも協働して色々な工夫をしてきました。そんななかで、多くの先輩や後輩にも恵まれて自分自身も成長できたと思っています。

そして、令和は佐賀での勤務が始まりました。3年間のうち2年間は新型コロナに関する対応等が続きました。JCHOのグループ病院として、のべ5名の看護師が約14週間、グループ病院や東京都への派遣業務に出向きました。日々、役割を果たして成長して戻ってきました。今後も、地域で求められる病院であるために一人一人の看護師が何をすべきかを考え続けてほしいと思います。

また、多くの実習生を受け入れているにも関わらず応募する看護師が非常に少ないと驚きましたので、看護師確保に力を入れました。先ずは、地元の看護学校や大学に頻回に出向きました。新型コロナの影響で2年間殆ど実習を受け入れることができなかったのですが、応募する学生も徐々に増えてきましたので看護部全体で育成と定着に力を注いでほしいと考えます。

佐賀にいる間、病院、アパート、諫早の自宅の往復ばかりで佐賀の皆様との食事会等の機会も少なくてとても残念でした。佐賀を満喫できなかったことが心残りです。しかし、教員や保健師、訪問看護師をしている看護学校の同級生、看護協会で勤務している先輩方や恩師とも再会できて嬉しいこともありました。佐賀に転勤してから孫も3人生まれ、夫が料理の腕を上げた事など良いこともあります。これから暫くは、ゆっくりとした時間を過ごしたいと思っています。

大変お世話になりました。



その肩や首の不調“巻き肩”が原因かも!?

巻き肩とは?

“巻き肩”とは、肩甲骨が外側に開いて肩が前方に丸まっている状態のことです。



どういう人がなりやすい?

長時間のデスクワークやスマホ操作が当たり前になっている現代における生活習慣病とも言える
“巻き肩”。

なりやすい人の共通点は、

- ✓ 長時間、手を前方で使用する作業（デスクワーク・スマホ操作・車の運転など）が多い
- ✓ 横向きで寝ることが多い、など…

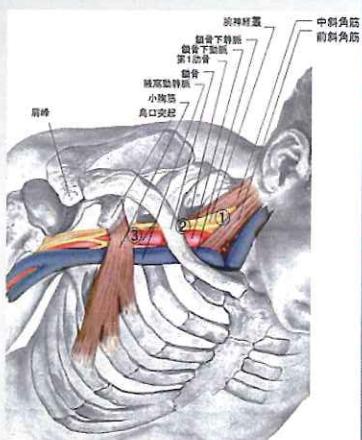


巻き肩が引き起こす症状は?

“巻き肩”的姿勢を続けていると、前胸部の筋肉や肩甲骨周りの筋肉が硬くなり、肩甲骨の動きが悪くなり、すき間を通る血管や神経を圧迫することもあります。

その結果、

- ✓ 首・肩が痛む、
 - ✓ 腕がむくむ、
 - ✓ 腕が痺れる、
 - ✓ 腕が上がらない
- などの症状が出てくる可能性があります。



巻き肩を改善させる体操と生活上の注意点

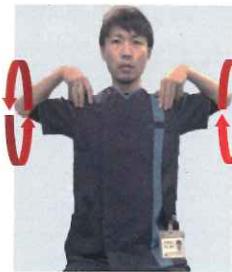
胸筋のストレッチ



壁に肘を引っ掛けた状態で、90度体を開きます。

首を伸ばしたい胸筋の反対方向に捻ると、より胸筋が伸びます。

肘回し体操



指先で肩を触りながら大きく円を描くように肘を回します。

この時、出来る限り左右の肩甲骨を寄せた状態で行うと効果的です。

肩甲骨内転・外転ストレッチ



手を組んで前に伸ばしながら、腕の間に頭を入れます。

左右の肩甲骨を離すように意識して下さい。

後ろで手を組んで後方に腕を伸ばします。同時に顔は天井向きます。左右の肩甲骨がくっつくように意識して下さい。

日常生活での注意点

肩こりの予防には、良い姿勢をとることが大切です。

長い時間同じ姿勢をとらないように気をつけましょう。

—あいた時間に肩や体を動かしましょう。

